

令和7年

年頭のご挨拶

一般社団法人 北海道電業協会
会長 藪下 裕己



新年あけましておめでとうございます。令和7年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員ならびに関係者の皆さまには当協会の活動に対し、日頃より格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、年明け早々に発生した「能登半島地震」、さらには9月の集中豪雨により、北陸能登地域では甚大な被害を受けることとなりました。今もなお避難生活を余儀なくされている方々がおり、被災された皆さまには一日も早く被災前の日常を取り戻すことができるよう、心よりお祈り申し上げます次第です。一方では、フランスで開催されたオリンピック・パラリンピックにおいて多くの日本人選手が活躍をし、またMLBでは大谷選手が「50-50」を達成。2年連続となるMVPを獲得するなど、アスリートの方々に勇気付けられる明るい話題もありました。

また、長引く国際紛争や米国の政権交代、韓国の政情不安など、今後の日本経済への影響が懸念される所はありますが、北海道においては、次世代半導体拠点の千歳地域への整備に向けたラピダス社の工場建設が本格化し、また石狩市を始めとした大規模再エネデータセンターの立地構想が具体化するなど、地域経済の活性化に向けて明るい話題が生まれており、引き続き旺盛な建設需要が見込まれます。

一方、超高齢化社会が到来しつつある中で、当業界においても“技能者不足”、“若年者の担い手不足”という問題に直面しており、今後の施工力確保が懸念される所です。この“人の問題”は、今直ぐに解決策が見えるというものではありませんが、「魅力と活力あふれる業界」を目指して働き方改革を推進し、入職率の向上と離職率の抑制を図っていかねばなりません。

昨年4月からは、建設業においても罰則付き時間外労働上限規制が適用となりました。継続的かつ積極的に業務の効率性や生産性の向上に取り組むことが重要です。また一方で工期の終盤を担うことも多い私どもは、業界内の努力だけでは解決できない要因も抱えています。長時間労働の是正に向けて、現場の4週8閉所の実現や適正な工期・工費の設定などに加え、主張すべきことが主張しあえる「対等なコミュニケーション」が図られるよう、引き続き協会活動を通じて、官公庁さまをはじめ発注者の皆さまに特段のご理解とご支援をいただけるよう取り組んでまいります。

結びになりますが、昨年、北海道で開催された日本電設工業協会全国会員大会では、当協会を挙げての取り組みにより盛會に終えることができました。あらためまして、会員各位のご協力に深く感謝申し上げますとともに、今年1年が皆さまにとりまして実り多き年となりますよう、そして、ご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

以上